



平成30年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年 5月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブレインパッド

コード番号 3655 URL <http://www.brainpad.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 清之輔

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 石川 耕

TEL 03-6721-7001

四半期報告書提出予定日 平成30年 5月14日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第3四半期の連結業績（平成29年 7月 1日～平成30年 3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第3四半期	3,109	22.5	418	252.2	424	272.0	289	152.5
29年6月期第3四半期	2,537	18.0	118	△41.3	114	△42.3	114	5.5

(注) 包括利益 30年6月期第3四半期 289百万円 (157.7%) 29年6月期第3四半期 112百万円 (3.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第3四半期	42.84	—
29年6月期第3四半期	17.03	16.24

(注) 平成30年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、条件付発行可能潜在株式として取り扱われる新株予約権であり、所定の条件を満たしておらず希薄化効果を有していないため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第3四半期	2,428	1,691	69.5
29年6月期	1,898	1,402	73.6

(参考) 自己資本 30年6月期第3四半期 1,686百万円 29年6月期 1,396百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年6月期	—	0.00	—	—	—
30年6月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成30年6月期の連結業績予想（平成29年 7月 1日～平成30年 6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,300	21.9	550	271.6	560	290.2	380	152.1	56.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績予想の修正については、本日（平成30年5月11日）付にて公表いたしました「平成30年6月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年6月期3Q	6,760,572株	29年6月期	6,760,572株
② 期末自己株式数	30年6月期3Q	111株	29年6月期	78株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年6月期3Q	6,760,479株	29年6月期3Q	6,734,772株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
（1）四半期連結貸借対照表	5
（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
（継続企業の前提に関する注記）	9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	9
（セグメント情報等）	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出の緩やかな回復の中で生産活動の回復基調が一服している一方、堅調な雇用・所得情勢を背景に緩やかに回復しております。また、企業収益の回復により企業の設備投資意欲は底堅く、国内のITサービス市場は堅調な成長を続けております。

このような中、当社グループにとっての当連結会計年度は、現在推進中の中期経営計画（平成28年6月期～平成31年6月期、最終年度に連結売上高50億円、連結経常利益7億円の見通し）の後半への折り返し1年目となります。当社グループは、当連結会計年度を成長フェーズが始まる1年目と位置付け、人材採用・育成への投資は継続する一方で、市場の拡大に引けをとらない売上成長と確実な利益確保に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間において、売上高は3事業ともに前年同四半期比増収となり、四半期あたり売上高が初めて11億円を突破いたしました。利益面も、売上高に追従して伸長しているほか、効率的なプロジェクト管理により案件利益率が想定よりも高まる傾向が続いており、前年同四半期に比べ大幅に増加しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,109,575千円（前年同四半期比22.5%増）、営業利益418,783千円（前年同四半期比252.2%増）、経常利益424,640千円（前年同四半期比272.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益289,636千円（前年同四半期比152.5%増）となりました。

続きまして、セグメント別の業績は次のとおりです。

#### (アナリティクス事業)

アナリティクス事業は、顧客企業の有する大量データに関するコンサルティングおよびデータマイニング（注1）の実行、ならびにデータに基づく企業行動の最適化支援を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、国内企業におけるデータ活用に対する需要は高まり続けており、当社グループに寄せられる営業案件についても、顧客企業の経営全体や事業全体に関わるテーマが増えてきております。これにより当事業が実施するプロジェクトの大型化・長期化が進み、四半期あたり売上高が初めて4億円を突破いたしました。加えて、利益面は、効率的なプロジェクト管理により案件利益率が向上し、前年同四半期に比べ大幅な増益となりました。

また、昨今のAIブームを受け、本年3月には、AIを活用して経営改善したいと考える企業の需要に一層応えていくことを目的に、AI活用の検討ステージごとに支援内容を体系化した新サービスプラン「+AI（プラスエーアイ）」を発表しております。

この結果、売上高は1,156,564千円（前年同四半期比40.9%増）、セグメント利益は414,425千円（前年同四半期比62.9%増）となりました。

（注1）データマイニングとは、企業や社会に大量に蓄積されるデータを解析し、その中に潜む重要なパターンや法則性を抽出すること。

#### (ソリューション事業)

ソリューション事業は、顧客企業に対して、データ蓄積、分析および分析結果に基づく施策実行に必要なソフトウェアの選定および提供ならびにシステム開発および運用を行っております。

当第3四半期連結累計期間において、売上高は、ストック型（注2）である「Probanse※」「Crimson Hexagon ForSight™ Platform※」などのライセンス販売や、データ分析環境構築に伴う開発案件、主力製品である「SAP® Predictive Analytics」を活用した分析支援案件の受注が積み重なり、好調に推移いたしました。加えて、利益面は、売上伸長による増益に加え、ソフトウェアライセンスの仕入れや外注人員の稼働割合が低い案件が増加したことにより案件利益率が改善し、前年同四半期に比べ大幅な増益となりました。

この結果、売上高は965,684千円（前年同四半期比15.3%増）、セグメント利益は199,750千円（前年同四半期比68.2%増）となりました。

※Probanse（プロバンス）：

市場が拡大しているマーケティングオートメーション（マーケティング活動の運用プロセスの自動化を支援するシステム）領域の製品。

※Crimson Hexagon ForSight™ Platform（クリムゾンヘキサゴン・フォーサイト・プラットフォーム）：  
Twitter、InstagramなどのSNSデータを多角的に分析できるソーシャルリスニング・プラットフォーム。

※SAP® Predictive Analytics（エスエーピー・プレディクティブ・アナリティクス）：  
データマイニングを自動化し、圧倒的な効率化を可能にした機械学習・予測分析システム。

（注2）ストック型とは、顧客数に応じて比例的に安定収益を得られるビジネスのこと。

(マーケティングプラットフォーム事業)

マーケティングプラットフォーム事業は、主にデジタルマーケティング領域において、当社が着目したデータ分析系のアルゴリズムから独自性の強いソフトウェアを自社開発し、SaaS(注3)型サービスを中心とした顧客企業への提供と、その保守業務等を行っております。

当第3四半期連結累計期間において、売上高は、DMP(注4)市場シェアNo.1製品(注5)である「Rtoaster※」のストック型売上高が好調に推移し、過去最高となる3.5億円超の売上高を達成いたしました。加えて、利益面は、ストック売上高の増加に伴い利益率が高まったことにより、前年同四半期に比べ大きく増益となりました。

また、本年3月には、「Rtoaster」の4年ぶりとなるメジャーバージョンアップを実施し、企業のマーケティング担当者がより簡単に、マーケティング施策の立案から成果創出までのPDCAを容易に一元管理・実行できる新機能を拡充しております。

この結果、売上高は987,327千円(前年同四半期比12.2%増)、セグメント利益は254,273千円(前年同四半期比30.3%増)となりました。

※Rtoaster(アールトースター)：

レコメンドエンジン搭載プライベートDMP。

(注3) SaaSとは「Software as a Service」の略で、アプリケーションソフトの機能を、インターネットを通じて顧客に提供すること。

(注4) DMPとは「Data Management Platform」の略で、企業が様々なデータを集約し活用するために構築する基盤のこと。

(注5) 株式会社アイ・ティ・アールが発行する市場調査レポート「ITR Market View：メール/Webマーケティング市場2018」「ITR Market View：マーケティング管理市場2017」において、3年連続で、DMP市場におけるベンダー別売上高およびシェアで1位(2014年度、2015年度、2016年度)を獲得。加えて、同社にて2015年度から調査が開始されたプライベートDMP市場のベンダー別売上金額シェアにおいても、2年連続で1位(2015年度、2016年度)を獲得いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産の残高は、1,889,883千円となり、前連結会計年度末に比べ558,580千円増加しました。これは主に現金及び預金の増加387,358千円、受取手形及び売掛金の増加156,500千円、仕掛品の増加24,733千円、繰延税金資産の増加17,437千円があった一方で、未収還付法人税等の減少42,687千円によるものであります。

また固定資産の残高は、538,154千円となり、前連結会計年度末に比べ29,352千円減少しました。これは主に有形固定資産の増加5,264千円があった一方で、ソフトウェアの減少24,006千円、のれんの減少16,646千円によるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べ529,228千円増加し、2,428,037千円となりました。

### (負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債の残高は、679,503千円となり、前連結会計年度末に比べ258,655千円増加しました。これは主に未払法人税等の増加178,437千円、未払金の増加55,900千円、流動負債その他の増加23,633千円、賞与引当金の増加14,554千円があった一方で、1年内返済予定の長期借入金の減少30,000千円によるものであります。

また固定負債の残高は、57,433千円となり、前連結会計年度末に比べ18,522千円減少しました。これは主に資産除去債務の増加236千円があった一方で、長期借入金の減少15,000千円によるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ240,133千円増加し、736,936千円となりました。

### (純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、1,691,101千円となり、前連結会計年度末に比べ289,095千円増加しました。これは主に利益剰余金の増加289,636千円があった一方で、新株予約権の減少494千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は69.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

政府が成長戦略として掲げる「第4次産業革命」の推進において、ビッグデータやAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）の活用が重点施策として謳われるように、データ活用関連ビジネスを取り巻く市場は成長が期待されております。

このような中、当社グループは、「データ活用の促進を通じて持続可能な未来を創る」という企業理念のもと、中長期的に目指す姿を「Analytics Innovation Company（アナリティクスとエンジニアリングを駆使した革新的かつ実践的なソリューションで最高の価値を提供する）」とし、現在、平成31年6月期を最終年度とする中期経営計画（平成28年6月期～平成31年6月期、最終年度に連結売上高50億円、連結経常利益7億円の見通し）を推進しております。

当第3四半期連結累計期間の業績が、売上・利益ともに期初予想を上回る水準で推移していることを受け、本日、通期連結業績予想を、売上高4,300百万円、営業利益550百万円、経常利益560百万円、親会社株主に帰属する当期純利益380百万円に上方修正いたしました。その概要につきましては、本日開示済の「平成30年6月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

（業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおりません。そのため、経済環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。）

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度末 (平成29年 6月30日)	当第3四半期連結会計期間末 (平成30年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	702,627	1,089,986
受取手形及び売掛金	439,564	596,065
仕掛品	19,159	43,892
繰延税金資産	4,006	21,443
未収還付法人税等	42,687	—
その他	123,257	138,495
流動資産合計	1,331,302	1,889,883
固定資産		
有形固定資産	93,394	98,658
無形固定資産		
ソフトウェア	199,943	175,936
のれん	66,586	49,940
その他	5,518	13,257
無形固定資産合計	272,049	239,134
投資その他の資産	202,063	200,361
固定資産合計	567,506	538,154
資産合計	1,898,809	2,428,037
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	37,512	43,070
1年内返済予定の長期借入金	30,000	—
未払金	55,174	111,074
未払費用	70,190	71,163
前受収益	151,477	161,076
未払法人税等	34	178,472
賞与引当金	12,312	26,866
その他	64,146	87,779
流動負債合計	420,848	679,503
固定負債		
長期借入金	15,000	—
資産除去債務	55,944	56,180
その他	5,011	1,252
固定負債合計	75,955	57,433
負債合計	496,803	736,936

(単位：千円)

	前連結会計年度末 (平成29年 6月30日)	当第3四半期連結会計期間末 (平成30年 3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	332,528	332,528
資本剰余金	309,228	309,228
利益剰余金	755,143	1,044,780
自己株式	△71	△117
株主資本合計	1,396,830	1,686,420
新株予約権	5,174	4,680
純資産合計	1,402,005	1,691,101
負債純資産合計	1,898,809	2,428,037

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 7月 1日 至 平成29年 3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年 7月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	2,537,980	3,109,575
売上原価	1,505,832	1,682,242
売上総利益	1,032,147	1,427,333
販売費及び一般管理費	913,253	1,008,549
営業利益	118,894	418,783
営業外収益		
受取利息	4	306
業務受託料	6,540	4,518
その他	865	1,482
営業外収益合計	7,410	6,307
営業外費用		
支払利息	333	67
持分法による投資損失	11,472	—
その他	337	383
営業外費用合計	12,143	450
経常利益	114,161	424,640
特別利益		
関係会社整理損失引当金戻入額	1,027	—
投資有価証券売却益	67	—
新株予約権戻入益	—	494
為替換算調整勘定取崩額	2,452	—
特別利益合計	3,547	494
税金等調整前四半期純利益	117,708	425,134
法人税、住民税及び事業税	496	165,512
法人税等調整額	2,474	△30,014
法人税等合計	2,971	135,498
四半期純利益	114,737	289,636
非支配株主に帰属する四半期純利益	14	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	114,722	289,636

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 7月 1日 至 平成29年 3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年 7月 1日 至 平成30年 3月31日)
四半期純利益	114,737	289,636
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2,341	—
その他の包括利益合計	△2,341	—
四半期包括利益	112,396	289,636
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	112,396	289,636
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年 7月 1日 至 平成29年 3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アナリティクス事業	ソリューション事業	マーケティングプラットフォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	821,067	837,703	879,208	2,537,980	—	2,537,980
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	950	950	△950	—
計	821,067	837,703	880,158	2,538,930	△950	2,537,980
セグメント利益	254,442	118,752	195,211	568,406	△449,512	118,894

(注) 1 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用およびセグメント間取引449,512千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社グループの管理部門等における一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年7月1日至平成30年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アナリティクス事業	ソリューション事業	マーケティングプラットフォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,156,564	965,684	987,327	3,109,575	—	3,109,575
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,156,564	965,684	987,327	3,109,575	—	3,109,575
セグメント利益	414,425	199,750	254,273	868,448	△449,664	418,783

(注) 1 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用およびセグメント間取引449,664千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社グループの管理部門等における一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。